

鳥羽城跡

鳥羽城は、九鬼嘉隆（1542-1600）によって妙慶川河口に位置する高さ 40m の段丘の上に築かれました。嘉隆は海戦での活躍で知られた海賊だったため、四方を海に囲まれた居城は彼にぴったりだと言えます。「鳥羽の浮城」と呼ばれる鳥羽城の正門は海に面しています。これは他の日本の城には見られない特徴です。

鳥羽城の総面積は約 106,500 平方メートルでした。城の堀は分岐した川を利用して作られており、城と町は城の北西門にかかる橋で結ばれていたのに加え、城の南側と西側の門も町への道に繋がっていました。最盛期には、城内には複数の曲輪、御殿、豪華な三重の天守閣を含む 13 の建物がありました。

江戸時代（1603-1867）には多くの氏族がこの城の城主となりました。九鬼氏の後、鳥羽城は徳川家の譜代、内藤忠重（1586-1653）に与えられました。その後 4 人の城主を経て、城は稲垣家に与えられました。稲垣家は全国の城が国家管理下に置かれるようになった明治時代（1868-1912）まで城主をつとめました。多くの城が破壊され、鳥羽城も 1871 年に取り壊されました。

元の建物は全く残っていないものの、城壁の石組みが良い状態で残っている箇所が多くあります。三の丸跡を利用してつくられた三の丸公園は、現在城内への入口の役割を担っています。他の主な石造物としては、本丸の南側と西側の石垣の基礎や家老の邸宅だった場所の石垣の基礎があります。

本丸と天守閣があった丘の頂上は、今では鳥羽湾を一望できる城山公園となっています。城の敷地の東側には鳥羽水族館、西側には鳥羽市役所があります。